



埼玉県立大学
障害のある学生の
支援ガイド

2017年8月発行



埼玉県立大学

障害のある学生の支援に関する 基本的な考え方

本学の基本理念の一つに「陶冶－誠実で温かい心と主体性を持ち、多様な価値観を尊重する人間性を磨き高める」があります。また、本学は「現代社会を構成する市民としての豊かな教養、確かな倫理観と人間性を基盤に、保健医療福祉分野における専門的な知識と技術とともに多職種との連携と協働に必要な能力をもって、人々の健康と生活を統合的に支え、共生社会に貢献できる人材を育成する」ことを教育研究上の目的としています。これらの理念に基づき、障害のある学生への支援についても、保健医療福祉に関する教育・研究の中核となる本学の特性を生かした支援を実現します。

平成28年4月に障害者差別解消法の合理的配慮規定等が施行され、

国公立の大学では障害者への差別的取扱いの禁止と合理的配慮の不提供の禁止が法的義務となっています。



- 障害を理由に、**受験・入学・授業受講・研究指導・実習・大学行事**

への参加を拒否することはしません。

- 障害のある学生とは、**障害及び社会的障壁**により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にある人をいいます。

- 修学権利の主体が**学生本人**であることを踏まえて、**学生の申請**に基づいた支援を行います。また、必要な支援を**申請しやすい環境づくり**を行います。

- 障害の有無に関わらず学生生活を共にすることが、**障害への理解**を深め、相互の学びと成長の機会となるよう、**学生同士でもサポートし合える環境づくり**を行います。

- 障害のある学生の個人情報は、「埼玉県立大学における**個人情報保護**に関するガイドライン」に基づき**適切に取扱います**。

- 障害のある学生に対し、その障害の内容や程度に応じて個別に**合理的配慮**を提供し、**成績を適正に評価**します。

●● 合理的配慮とは

合理的配慮は、障害のある学生の人権が障害のない学生と同じように保障されるとともに、教育や研究、その他学生生活において平等に参加できるよう、それぞれの障害特性や困りごとに合わせて行われる配慮のことです。

合理的配慮の特徴は以下のようにまとめられます。

- ・ 本人からの意思の表明に基づくもの
- ・ 障害の特性や具体的場面・状況に応じて、社会的障壁の除去のために、「個別」に必要となるもの
- ・ 体制面や財政面において大学側に「過重な負担」を課さないもの

●● 相談窓口

困っていることや心配ごとについて次の相談窓口にご相談してください。

学生本人のほか、ご家族の方からの相談にも応じています。

- ・ 学生支援センター（事務局学生・就職支援担当）

電話 048-973-4116 メール gakusei@spu.ac.jp

- ・ 保健センター

電話 048-973-4119 メール gakusei-sodan@spu.ac.jp

- ・ 学生が所属する学科・専攻・研究科の教員

- ・ 障害学生アドバイザー

学長から指名を受けた、身体、知的、精神、発達各障害者への支援について知見を有する教員等で、障害のある学生に対し、専門的なアドバイスをします。詳しくは、学内ホームページで案内しています。

●● 支援の流れ

相談

随時受け付けています。診断書は必要ありません。

オープンキャンパス時や受験時、入学前も、相談に応じています。

👉「相談窓口」はP3を参照

面談

障害学生アドバイザー、担任教員等と修学や学生生活上の支援の内容について話をし、支援制度の利用についての確認も行います。

支援制度の利用開始後も、定期的に面談を行い、支援内容の見直しを行っていきます。

支援申請

申請書（障害に係る不当な差別的取扱いの解消及び合理的配慮の提供に関する申請書）に、障害等の内容及び配慮等を希望する理由、希望する配慮等の内容（具体的に記入すること）を記入し学生・就職支援担当に提出します。

👉「申請書の例」はP5を参照

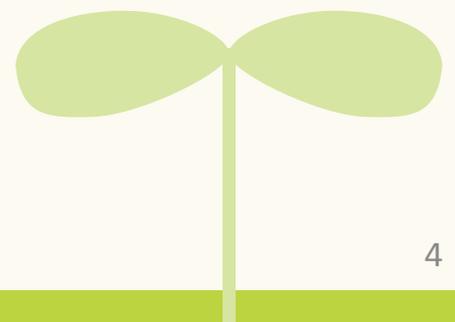
支援内容 の決定

申請・面談の内容を踏まえ、支援内容を障害学生支援検討会で検討し、決定します。決定した内容については、学生本人に文書でお知らせします。

また、必要に応じて、科目担当教員、関係教職員等へ、障害のある学生の支援に係る情報を周知します。

支援開始

授業や試験、学校生活等において、決定した支援内容に基づき支援を行います。



合理的配慮の提供に関する申請書 例

申請書様式は学内ホームページ又は事務局で入手できます

申請書は
事務局 学生・
就職支援担当
へ提出

別紙 1

障害に係る合理的配慮の提供に関する申請書

年 月 日

(あて先)

埼玉県立大学長

学科・専攻名 _____ (年次)

学 籍 番 号 _____

氏 名 _____ 印

下記のとおり合理的配慮の提供を申請します。

1 障害等の内容及び配慮等を希望する理由

障害等の内容

(障害等の内容が分かる添付書類)

配慮等を希望する理由

2 希望する配慮等の内容 (具体的に記入すること)

障害等の内容の欄には、診断名をお書きください。診断名が不明な場合は、できるだけ具体的な症状等を記入してください。

医師の診断書や障害者手帳をお持ちの方は申請書に添付してください。ただし、診断書がない場合でも申請できます。

授業、試験、実習、就職支援、学生生活等の場面で、希望する配慮の内容についてなるべく具体的に記入してください。これまでの学生生活で合理的配慮の提供を受けていた場合はその内容もお書きください。申請していただいた内容に基づいて、合理的配慮の提供について検討を行います。

合理的配慮 障害のある学生への配慮・サポート

合理的配慮の提供は、障害の内容や程度に応じて個別に行うものですが、ここでは、場面に応じた合理的配慮の例を紹介しています。

授業における合理的配慮の例

車椅子で教室の机を使えるかどうか心配

《支援例》

各教室内に車椅子用の机があります。また、出入口付近等、教室への出入りがしやすい座席で受講できるように配慮します。

手指の運動に困難があり、ノートを取ることが難しい

《支援例》

ICレコーダー等を用いた授業の録音を認めます。授業中、ノートを取ることが難しい場合は、板書を写真撮影することを認めます。

休み時間内に教室間の移動ができるか心配

《支援例》

教室間の移動に時間を要した場合は、授業開始から数分程度遅れて入室することを認めます。

服薬のため、授業の途中退室を認めてほしい

《支援例》

座席位置を出入口の付近に確保することができます。個々の学生の障害特性に応じて、必要な医療処置のため、授業の途中退室を認めます。

聴覚に障害があるため、授業中の先生の発言が聞き取れるか心配



《支援例》

口頭による説明等は、ゆっくりと明確に行います。
口頭の指示だけでは伝わりにくい場合に、指示を書面、板書で伝えます。
授業内容等の理解を深めるため、メール等での個別質問に対応します。

視覚障害のため、授業中に配布される資料や板書の内容が把握しにくい



《支援例》

授業中教員が使用する資料を事前に提供します。
教室内で、講師や板書・スクリーン等に近い席を確保します。

障害の特性により、授業で決まっている方法（たとえば集団）で講義・実習等に参加することが難しい



《支援例》

本来の教育目標と照らし合わせ、公平性を損なわない範囲で他の参加方法への変更を検討します。
成績評価においても、柔軟な評価方法を検討します。

声が出ないので、パソコンなどを使用した筆談をみとめてほしい



《支援例》

筆談による発表を認めます。

試験における合理的配慮の例

手指の運動に困難があり、解答用紙への記入に時間がかかる



《支援例》

試験時間内でのレポート作成・提出や記述・論述式試験では、必要に応じて、試験時間の延長を認めます。試験時間を延長した場合は、別室での受験を認めます。

マークシート式での試験では、マークシートにチェックを入れる等の形式での解答を認めます。

糖尿病による低血糖予防のため、試験中にブドウ糖の補食が必要となる場合がある。必要が生じたときに補食することを認めてほしい



《支援例》

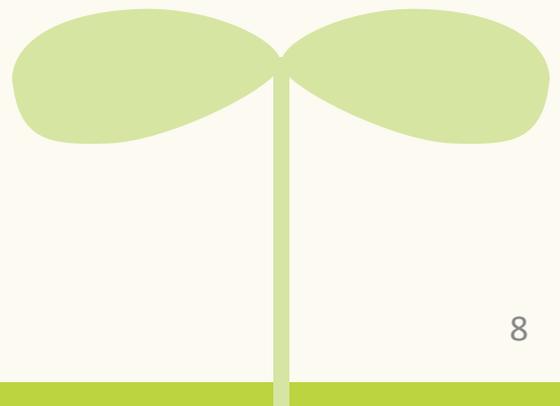
別室での受験を認め、必要に応じて試験時間中の補食の携帯、服用を認めます。

視覚に障害があるため、一般の学生と同じ問題用紙では内容が分かりにくい。解答用紙への記入も難しい



《支援例》

個々の学生の障害特性に応じて、試験時間を延長したり、支援機器の利用を認めます。



試験結果を他人に知られることにとっても不安を感じる



《支援例》

試験結果等の発表や通知は、他の学生の目に触れないよう、公表方法を配慮します。

視聴覚機器の音声が聞き取りにくい



《支援例》

視聴覚機器の使用時は、必ず本人に確認し、必要に応じて適切な音量調整等を行います。

リスニングが必須となる試験を他の形態の試験に代替することもできます。

試験中の注意事項が聞き取りにくい



《支援例》

入学試験や定期試験、又は授業関係の注意事項や指示を口頭で伝えるだけでなく、紙に書いて伝達します。

実習における合理的配慮の例

障害特性により、学外での実習が心配



《支援例》

事前に実習施設の見学を行えるよう調整を行います。

合理的配慮の提供が可能な機関で実習ができるよう可能な範囲で調整します。

学生生活における配慮の例

障害のため疲れやすく、休憩できる場所がほしい



《支援例》

学内に、障害のある学生のための休憩室・スペースを用意しています。

服薬のための薬剤を学内で保管してほしい



《支援例》

必要に応じて薬の保管を保健センターで行います。
また、服薬や自己注射を保健センター内で行うことができます。

事務局に提出する書類に自筆で記入することが難しい



《支援例》

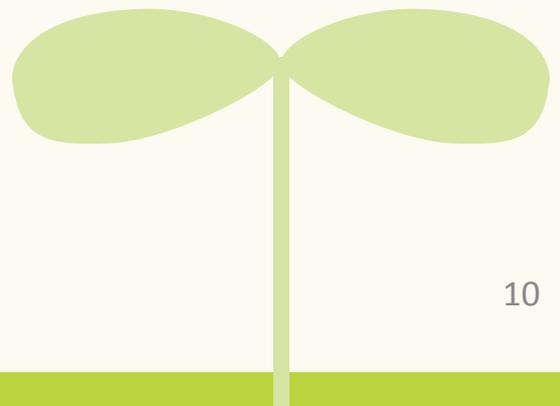
教職員や支援学生、同行の介助者の代筆による手続きを認めます。

口元が見えるように話してほしい



《支援例》

マスク等で口元を隠さないように配慮します。
口頭での説明は、ゆっくりと明確に話すようにします。



埼玉県立大学

〒343-8540 越谷市三野宮820

TEL 048-973-4116

FAX 048-973-4808

E-mail gakusei@spu.ac.jp